

名寄 死季

合類俳諧忘具

秋

911.3
7
秋



立琴

年依り

芋葉露取

握の紫

芋の紫の房を握の紫に括るとして

二年に供するを握ハ指ノ一種ニ

星何

銀河

天漢

并ニ同シ

壽牛

一名織女織女ハ河鼓オリヒメ天帝ノ

女嫁メ後女織ヲツトメスヨツテ天川ヲ隔テ年ニ一度逢シム

蕪姫

石子姫

多織姫

新島姫

握の紫姫

以上

七夕七姫の名ニモ一母系に由来ス

こひし舟書迎舟

妻一舟とも云又七種舟といふ

ハ七毛の宮と舟と積て舟向と成リ

大朝星

勢の橋

貸小袖

机砚洗 北野の神事に習ふ女

紅紫袴

ハ雲コレハマコトニ有ニアラス譬ハアラマレニ云ナリ

二ありぬ列の海都の舟は隙を以て紅にあらるといふ

乞巧奠

荆楚歲時記七夕婦人結絲縷穿七孔針或以金銀鑰石爲針陳瓜

菓於庭中以乞巧有蟾蜍網於瓜上則以爲得巧

七箇の池

七ツの盥に水と入て流とつけ

七月

子の氣をうつすといつたり石簡の池ハ天の川と云
り一亦石の鹽と水とたぐへるもゆるりと云と云
補 星の夜り

日向子向 男七夕 女七夕 二星存形
七夕の棚をかき
花とけ瓜菓を飾

へ空煙ふと日こそ一書あ
あふりのまきかこと又
七夕の夜り

高辛子の小子七月七りに死す
其冥鬼と云て人々瘡病といふ
その存日小麦餅と好しう
れと粟餅といひてあ
れと年中の瘡病と降くと云

節供 七夕鞠
赤き井家
節供家

残暑 暑ノ去ルヲ
扇窓扇窓
捨忘ル也

衝突入 昔ハ諸国ニツト入トテ家々秘藏セル器財嫁娘妾ニ至
マテ常ニ見夕キ物ヲ客殿居間ニ限ラス深ク入テ見シ

中元 十五 生身魂 刺結 蓮飯
生身魂ハ毒犯セ餐
ナ刺結蓮飯ハ祝威

の間に相送 躡
○掛乞 花火 身入風

てこれをばす

身よむ 身よむめて 風冷 壇吹
狂人の壇と云ふん
て手と合て壇の手ぬ

して吹多と云又唇をさる為
二百十日 立春ヨリノ日數ナリ早稲ノ蒼
サカリナレバ風ヲ厭フ日ナリ

七月

氣形門

残暑 秋の燥 初暑
七月十六日トゾ和
三コレヲ片鳥屋ト

云ニ歳モヲ易ルヲ西鳥屋ト
初暑 樹傍り 小暑
三コレヲ片鳥屋ト

鷹也鶉雲雀其外小鳥狩ナリ
鷹の葉を立又母増
鷹を好む

殺鳥而不食 いな虫 虫送る 虫返
茶立虫 形徴

見エズ障子ナドニ色アリ人伺へハ
色ヲ止ムソノ色茶ヲ黥ルニ似タリ
蜻蛉 かけろふ

フ數十莖ヲナシテ枝間ニ垂ル長尺余線ノ如シコレヲ樹線ト云

牽牛花 莖朝顔共ニ同シ

日影草 本橙 草の花 茗荷花 根旁ニ生子即花ナリ

萩花 くれれ草 夜芝草 風竹草 萩ハ鞆ヨリ小ニ中空心葉モ亦

小ク皮 厚シ 萩花 日小萩 日中あけ萩 補 鹿鳴草

女房花 花 男房花 茶花 萩花 萩花ハ萩ノ古枝ニ咲ク

似く花白きくをこまみちの花ともいふ 芭蕉 開黄花極稀トツ

小車の花 旋覆花ト書ク長一二尺葉如柳莖細ク花深黄色如菊花 核梗 ひと草

ありの松翁 和名阿里乃比布木 蘭 ありき ちちばう

一幹一花ニメ香餘リアルヲ云一幹數花ニメ香足ラサルヲ蕙トス傳名抄蘭布知波加万大和木也真蘭和名藤袴又アラ、キト云〇蘭有數種蘭叶

沢蘭生水菊山蘭即蘭草之生山中者蘭花亦生山中与三浦地別葉如麥門冬トソ是今世蘭ト稱スルモノ也

三葉似女即花葉而無切又六七月開細白花似繡線花云 狼尾草 狗尾草大子叶花穂ノ象狗尾ニ似

多リ黄白色ニメ実ナシ 原野埴塙多ク生ス 苧麻 和三五夏生苗葉其莖有赤有白中空

其葉似大麻葉而大每葉凡五尖夏秋間極裏抽出花穂紫々黄色高丈余每枝結子大如豆 益母草 葉ハ荏ニ似テ方莖白花心花節間

ニ生ス亦節々穂ヲ生ス四五月穂ノ内小花ヲ開紅 紫色トモ其功婦人ニ宜ク目ヲ明ニシ精ヲ益ス 角力草 スフトラシカ

解能草 原野濕地ニアリ葉地ニ布テ叢生ス石曹ニ似テ凍ク秋莖ナカランヤ 夕起ス嶺ニ穂ヲナス青白色其莖扁シタタマシ長六七寸

小児ノ戯レトスルヲ以テ名ク〇 一種紫花地丁ヲモ角能草トス 葉少草 弟切草 初生

ノ穂ニ似テ西々對生シ枝極アリ小黄花單、五瓣ニテ細葉アリ莖ヲ結フ三稜アリ中ニ細子アリ葉ニ用フ昔鷹飼暗類其葉ニ精メ神ニ入鷹傷ヲ被ルヲアレハ葉ヲ按テ傳ルニ愈ユ人草名ヲ同任秘メ不

水引の花 長キ穂ニ小花 親善草 六七月抽莖開小淡紫花成 穂葉似大葉麥門冬而薄

曼珠沙花

捨子花

死人花

春ノ初生葉蒜ノ缺ノ如ク四方ニ散メ地ニ布七月苗枯一莖抽出ス

箭萼ノ如シ長尺許莖端ニ花ヲ開クフ四五朶六出紅色山丹花ノ状ノゴトシ

沁豆

紫花ヲ開ク鬱金花 四月初生

苗似薑黃花白質紅末秋出莖心而無実

艾花

蔓葉如薔ニ似タリ七月葉間ニ筒咲花ヲ開ク五瓣ニメ少ク瞿麥ノ状

アリソノ葉兩々對生ス小兒戯レニ花ヲ身ニ点メ灸ニ擬スルナリ

芋の紫

嵐尾花

水かけ草

水ヲ手向ルノ意ニ又稱ヲ水カケ草ト云ハ只掛ル意ニ

蓮実花

常山花

根

常山葉名蜀漆其葉甚臭葉嫩ハ仙翁花 高二尺許花真紅ナリ世ニ傳フ嘘不沢六月開細花白紅雜攢 仙翁花 峨仙翁寺ヨリ出ル故ニ名クトソ

仙翁寺ハ今絶ユ

花紫

春種ヲ下ス長ジテ苗高一尺以耒葉ハヲグルマニ致メ小ニ琉璃草ニ似タリ花ハ梢葉ノ間ニアリ形

円瓣五出ニメ内ニ莖鬚ナシ其色白シ又粉紅及ヒ黄色ノ物アリ実ヲ結フ形円尖ナリ

花野

花壇

茶のしき

一葉草

茗草

花留

花壇

頼桐花

葉ノ大サ五六寸花深紅色莖長シ

早稻

稻の花

富草花

箱の香

室のまや箱

五畿内ニテ苗代の末を室と云ふ箱と云ふは田に移す時太の室を計けしむる苗ハ早

くみの名と云ふは室のまや箱と云ふは箱と云ふは三七の茶

春生苗夏高三四尺葉似菊艾而勁厚有岐突夏秋開黃花莖如金糸細氣不香以根末合金瘡如漆粘物故名山漆又其葉左三右四故名

薑

辨慶草

和三景天和名以岐久佐俗云弁慶草高一二尺葉淡綠色光沢葉厚狀似長匙及胡豆葉而不尖夏

開小白花結実

老母草の實

槐の花

黃花其花未開時如朱粒 其实作莢連珠中有黑子

七月

服食門

豌豆

西瓜

植豆

強元豆

綿瓜

一名布瓜黃花

ヲ開ク瓜大サ寸許長一二尺ヨリ三四尺深綠色嫩時ハ皮ヲ去蔬トス

南瓜

天瓜

七月

五二日

木瓜の實 時珍曰其實如小瓜而有鼻○和三絲木瓜者不合本草注乃是木桃而非木瓜藥肆以充木瓜近頃有唐木瓜者入愛其花乃是

真木 瓜 挑實 梨 あまのね 和三腐梨ハ野梨ニ山梨トモ大ナ

杏ノ如ク味酸澁不堪 瓢 ひきま 夕飯の末

燒米 糲米是ヒラタコメニ稻ヲカリ穀ヲ草ノ出ルマデ煮テ乾カレ確ニテスリ着ク

七月

公式門

新綿奉ル 十六 日 内裏の貢の物ニ或説ク蚕路の事ニ 廣瀬祭 日 四

龍田祭 日 四 共ニ四月ニ註アリ 北野御手洗 日 七 今曉北野松梅院軒御手

供之今日社壇煉拂アリ 文殊會 日 八 東寺西寺ニテ行ハル 六道系 日 九

迎饗 六道在五條末北建仁寺異角紀事諸六道地藏謂男女撞鐘而迎聖吳各買檀杖而携歸又買新穀供

聖是 增 清水千日詣 自九日 今日本詣スレハ平日ノ千度或ハ至十日 四万六千日ニ當ル云々但元亨親

書ニ俗説ナリトソ俗 三井寺女詣 日 十五 孟蘭盆 以目蓮救

母為始也梵語孟蘭此云倒懸也盆則此方器也 迎火 十三日

聖聖系 魂祭 魂棚 棚經 麻木筭

風尾卷 異名ハ水掛州 孝花市 送火 枝豆

枝小角豆 此外掛索麩根芋細糸瓜茄子芋モ聖灵ヲ祭ル意アラハ秋タルヘシ 施餓鬼

墓詣 切籠 高灯籠 灯籠トバカリ句ニヨリテ雜ニ 施火燒

大文字火 東山淨土寺ノ山上大文字ト云ナリ 舟形火 船岡

妙法火 北山松 此外所々山岳并原野諸人競集燒枯麻條并檜枝破子公卿臺是謂聖灵送火又稱施火

江湖別

江湖ニ集リレ
僧チルヲ云

接待

佛寺或ハ四備ニ店ヲ開テ往来
人ニ茶湯ヲ施スヲ門茶ト云

水灯會

紀夏十六日夜宇治川船中修之則水中施食之法也
也畧遊覽船數千前後相連又東西堤上見者如堵

御灵御出

十八 御灵社上在京極北西下在京極大炊御門北上下御灵
神輿各一基今日御出遊行八月十八日有祭八所御灵

者所謂吉備灵崇道天王伊預親王藤原大夫人橘逸勢文屋宮田丸
藤原廣副火雷神是也以其御旅所中御灵離宮之間謂之御旅也

地蔵祭

九四 洛外六所地藏詣所謂加茂御菩薩池山科伏見
鳥羽桂太祭是也九一日六所之行程十里余也

御狭山祭

九七 坂入姬命此祭ニハ薄ニテ神殿ヲ造ル其外人ノ家モ祭ノ少チハ薄ニテツ
クル往古ハ敕使ヲ立ラル彼ホヤト云ハ敕使ヲ尊敬ノ為ニ新ニ仮屋ヲ
設タルニ今モ其余風
ニテホヤヲ作ルニ

みさ山狩 徳作
信州上諏方建御名
方富命下諏方八
○峯入 三月ニ
註ス

三秋渡門

露

稻妻

霧

雲

雪

相撲

七月に相撲高といひて法國のお撲と云ふと相撲といふは七月廿
みらりし肉取といふあり月廿八九日二名合せあり天子御覽
たりこれより准して過角力なる秋と
して三月にまゝハ俗の加減なり

野遊

燗風

風爐

藪入

出代

異名春
二月シ

月

新月

夕月

玉兔

挂男

酉陽雜俎其人姓吳名
四学仙有過謫令伐樹

嫦娥

後天文志嫦娥羿妻竊不死葦奔月是
為蟾蜍云々蟾ハ月中三足ノ蛙ナリ

上弦

七日

下弦

九三日

白朮

晨明

片破月

桂の朧

月ノ
異名

ナリ秋季ト定ルハ勿論ニテ四季ノ詞ヲ結フ時ハ四季ノ月ニ用ヘキ也
又植物ニ二種アリ菌桂ハ柿ノ葉ノ如クニメ実リ三縦支アリ鋸齒ナシ
花黄アリ白アリ巖桂ハ鋸齒アリ枇杷ノ葉ノ如シサレドモ古今
抄ニ地下ノ桂ニハ花ノ用ナシトアレハ植物ニハコレヲ除ク

下冷

冷

連哥新式秘抄ニヒヤ、カ初
秋ニ用ユヘシサマシキハ

秋ノ深
キヲ云
○藻
河狩
毛見
檢見

荏ふ山
秋山ノ形
容ヲ云
律ノ調
秋ノ調子ナリ
秋とつら
院敷抄
又律ハ陰ニ
律

志ろくうり
秋風ノあるも
休マカ
あ
改めれ
ハ
ハ
又
是
の
初
の
下
ニ
位
ナ
す
杖ノ暮
礎

土白
土白作
叔白
もも

○鶉舟
鶉鴿
ななき
石
鷹

緋
海ニ近キ所
多クアリ
鰯
九方足
和
三

名九方足
以其多有之
謂乎又津ノ字ト云
○鯉
鯉
小暴江
鯉

川鱧
○鮎
鮎
虫
小暴江
鯉

リ八九月
稍長メ六七寸
色亦黒減
シサ
ラ
シ
洗
フ
カ
如
シ
故
ニ
名
ク
ノ
芒
ハ
穂
ニ
出
ヌ
ヲ
云
籬
芒
ハ
穂
ノ
ハ
タ
ヲ
サ
ケ
タル
ヤ
ウ
ナル
ヲ
云
十
寸
穂
ハ
尺
バ
カ
リ
アル
ヲ
云
麻
草
穂
ハ
糸
ノ
乱
レ
タル
ヤ
ウ
ナ
リ
眞
蕪
宇
ハ
赤
キ

萱
芒
ハ
キ
長
短
二
種
アリ
短
キ
モ
ノ
ヲ
カ
マ
ト
云
據
葉
小
淡
青
色
莖
微
赤
三
月
開
小
白
花
細
子
至
秋
紅

千種蒼
縮菊
綿こき
薯蕷

番椒
新米
古米
新酒麴
委多ハ九
月ニ出

龍田姫
秋ヲ領スルニ
追考保姫
神ヲ云
ノトニ註ス

八月
三才門

葉月
甫殺之氣
生百卉
落葉故曰
葉落月
今略メ
稱葉月一
説ハ初解
トカク

壯月
尔雅曰
八月為壯
郭璞注云
未詳

桂月
桂花ノ開
ク月
ナレバナ
リ

仲秋
竹春
竹譜竹以
八月為春

月見月
秋風月

又燕去月
南呂
律○史
律書陽

又燕去月
南呂
律○史
律書陽

又燕去月
南呂
律○史
律書陽

氣之旅入藏也月令廣義南任也呂助也言陽氣尚有姓生陰助陽成功也

白露 節 秋分 八月ノ中

八朔 たのむ祝 阿面の日 後日器 京俗今日家ノの乳母ハ一雙と以て

其妻ハ所の女也に修り必其の内に生材并ニ蒜等と嘗る蒜等ハ白練餅と赤小豆と豆ナリおこ後暖味常若官の附より起るとも云

天中節 朔日ナリ傳言凶惡日也陰陽 添水 ツナツ竹ニテ水ヲアヤツリ鹿ヲ驚カヌ又僧都ト

郡又燐敵トテ馬ノ尾ヲ焼テ田ニ立レハ鹿ソノ田ヲハマ又ニ余本國南條郡廣野邑ニテ老夫ニ問ニソメサスト答フソメハサレヌセソノ通ヘルカ

引板 添水ニ 鳴子 風ニテ鳥オドスモアリ人ノ細ヲ引モアリ又鳴竿トハ鳴子ヲ付シ竿ナ

業山子 鳥おど 落し水 肌寒 初潮 秋ハ金

うき寒 ぐき 初月 二日月 待宵 退之カ新月似磨鎌

小正月 名月 三五夜 新月 十八三日月ナリ樂

夫カ三五夜中新月 色トハ十五夜ナリ 望月 日ト相望ム 名月

けの月 月の寮 月元 月今宵 華名月

既望 十六夜 ぼよよ月 立待 十七 飛待 十八

臥待 十九 亥中月 九 駒迎 駒膏 公事ニ十六日駒膏此カハを代還高の

御園忌とあぐるまよく十のりになさる云々 二十日位徳初使牧の馬六十疋を十七日甲斐穂坂の馬馬共武蔵

小使馬を十疋を外秩又馬を疋疋を馬を十五疋九三日位徳月馬 了疋疋代ハの上使馬を疋疋正ひく 放生 十五 号を放つ

魚を放つ 時心 春ニ 社日 立秋後五戌日 春ニ委ク注ス 蹄方 暑風漢語抄ニ

八夜知又乃 和木乃加世 砧 碓和兜 伊太掃衣石也冬を物スハ 夜々月

ハを中抄ニ新打と虫さぐら又志きりにホニ○志ころ 月

八月

氣形門

初雁

大ヲ鴻ト云鴨ハ俗云野雁ナリ又白雁アリ海雁ハ海ニアリ常ノ雁ヨリ微小ナリ

鳴

鴨

鴨の羽接と

キツキ 伝りきりぬてあをを別みおす事不
テラツキ 蜜なぐらふちに樹て栽き

小雀

色々ノ鳥ワ

父ルヲ云

於雀

四十雀

五十雀

小雀

山雀

掠雀

鷲

鶺鴒

啄木鳥

鶺鴒

栗鷹

以上ノ數渡ル来ル
ト云テ秋ナリ

頰赤

鶺鴒

鶺鴒

翠雀

連雀

頰白

鴉

種子鳥

鶺鴒

鶺鴒

鷓鴣

同白雀

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

住須加鳥

以上ノ數一句離レテハ雜季ニツレテハ春秋飯来ヲ
断ルニ不及 形状イウレモ春ニ註ス

鶺鴒

礼燕

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 未タ人
馴又モ

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鷹打ハ巖屈ニ小草ヲ結テ居
リ羅ヲ樹間ニハリテ捕ル

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

形似鳩而小 跃脊至尾 黄褐色 眼及嘴 顔容似小 鶺鴒 眼 迎 黑 眼 上 白 條 引 頰 嘴
黑 而 未 曲 頰 臆 白 腹 黄 赤 有 黑 横 彪 翻 白 羽 黑 脛 掌 黑 丸 利 而 每 擊 小 鳥 食 之
其 色 高 喧 如 言 奇 異 ○ 早 贄 ト ハ 八 雲 モ ツ ノ シ ッ テ ハ 我 身 ガ ハ リ ニ カ ヘ
ル ヤ ウ ノ 物 サ シ テ 置 ナ リ 歌 林 良 材 鶺鴒 ハ 時 鳥 ノ 沓 又 ヒ ニ テ 有 ケ ル カ 沓
手 ヲ ト リ テ カ ヘ サ ヅ リ シ ニ ヲ ッ テ 其 カ ハ リ ニ カ ヘ シ ヤ ウ ノ 物 ヲ 草 ノ
莖 ニ サ シ ハ サ メ ル ヲ 云 ト 云 リ 本 説 ナ シ ト イ ヘ 氏 後 人 ト リ 用 ヒ テ ヲ メ
ル 哥 毛 有 ニ ヤ ト ヅ カ 何 草 之 終 の ち や る 人 と リ 一 子 を 一 て ち ろ 何 の
名 並 に せ ぐ 虫 一 ハ 楳 ふ と を 考 て き 一 て 時 考 の 終 又 と て ち ろ 一 ハ

菜大根蒔

罌粟蒔

十五夜ニマテバ甚盛
ニシテシゲレトゾ

芥菜蒔

八月

氣形門

初雁

大ヲ鴻ト云鴨ハ俗云野雁ナリ又白雁アリ海雁ハ海ニアリ常ノ雁ヨリ微小ナリ

鳴

鴨網

鴨の羽様と

本家 伝りきりぬとあつを別み出す事不
タラキ 蜜なぐらふちに樹つて載ま

小多波

色多波

色々ノ鳥ワ
タルヲ云

於多波

四十雀

五十雀

小雀

山雀

掠雀

鷺

鵠

日雀
トモ

啄木鳥

鶺鴒

栗鷹

以上ノ数渡ル来ル
ト云テ秋ナリ

頬赤

鶺鴒

鶺鴒

翠雀

連雀

頬白

鶺鴒

鶺鴒

鷓鴣

田白鳥

鶺鴒子鳥

鶺鴒

鶺鴒鳥

任須加鳥

以上ノ数一旬離レテハ雜季ニツレテハ春秋飯来ヲ
断ルニ不及 形状イウレモ春ニ註ス

鶺鴒

礼慈

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

形似鳩而小 跃脊至尾 黄褐色 眼及嘴 顔容似小 鶺鴒 眼 黑 眼 上 白 條 引 頰 嘴
黑 而未 曲 頰 臙 白 臙 黄 赤 有 黑 横 筋 翻 白 羽 黑 胫 掌 黑 凡 利 而 每 擊 小 鳥 食 之
其 色 高 喧 如 言 奇 異 ○ 早 贊 卜 八 八 雲 毛 卜 ノ シ ッ テ ハ 我 身 ガ ハ リ ニ カ ヘ
ル ヤ ウ ノ 物 サ シ テ 置 ナ リ 歌 林 良 材 鶺鴒 ハ 時 鳥 ノ 沓 又 ヒ ニ テ 有 ケ ル カ 沓
手 ヲ ト リ テ カ ヘ サ バ リ シ ニ ヲ ッ テ 其 カ ハ リ ニ カ ヘ ン ヤ ウ ノ 物 ヲ 草 ノ
莖 ニ サ レ ハ サ メ ル ヲ 云 ト 云 リ 本 説 ナ シ ト イ 一 氏 後 人 ト リ 用 ヒ テ ヨ メ
ル 哥 毛 有 ニ ヤ ト ン 一 氏 後 人 ト リ 用 ヒ テ ヨ メ
茶 莖 に せ ぐ 虫 一 氏 後 人 ト リ 用 ヒ テ ヨ メ

四尺對シ分テ葉ヲ出ス楡ノ葉ニ似テ狹ク七月花ヲ開ク楡ノ子ノ如ク
ニメ紫黑色ト云々又花ハサカズ凡〇芒ニ類セルヲ眞ノ吾亦紅ト云

葛の葉 夏ノ花ノ下ニ註アリ **葛の根** 細莖葉細密如杉藻而表裏淺青色
而結子 **縷紅** 莖端出蔓八月枝又抽短莖開花形如

丁子様而紅色長六七步可愛花罷結角 **極特荅** 高三尺許葉ハ煙
中有細子〇千葉ナルヲ仙壽菊トイフ 艸ノ如ク荅小シ

紅ナリ形穂 **木絨刈** **鬼灯草** **鴨跖草** **五夜草**

青き花 **ちくさの草** 月艸ニカク此荅ハ 月影ニサケバク

二三尺細莖葉每五葉兩々對生八月抽莖開細花狀如 **荇草** 生山
胡蘿蔔花而粒々青色既開則正黃是亦可謂如蒸栗平 原高

風仙荅 苗高二三尺莖有紅白二色極開花或黃或白或紅或紫或碧或
雜色亦變易狀如飛禽又云黃碧ノ二色ナシ **木草色附**

紫苑 鬼のこ草 万葉志れ草系ヲ紀スつれとも鬼のこ
されと云々志れ草系ヲ紀スつれとも鬼のこ

ふつとシコトハレ **車前子** 小兒スマウトリ艸ト名ツケテ戲
ろくと嫌ふつと

通ノ角カ艸 **ずいき** 仏掌藤 甘藷トモ **苦參** 引莖梢
ト云ニヤ

成穂七八月開莖根葉花ハ白丁花ニ似 **牡丹分根** 芍薬 五十五
共為菜用故連根採之 テ淡紫色

社前 秋 **木棉取** 棉のり 苗掘 蔓延數尺數寸一節每
分後 氏

月開花結實 **菘竹** 蓋艸ニ書和三三少ク越 **染掘**
根紫赤也 前ヨリ出ルト云々

間引菜 拔菜 小菜 つかま菜 粟稗黍刈

稻 稲舟 荇田 稻莖 稻ノ渺々ナル
見ワタレヲ云

落穂 四とち 夏艸 水々々草 茸狩

木の子 初茸 小茸 松茸 藍茸

推茸 羊肚菜 表褐色端曲捲裏黃白色無細
刻滑而有孔如蜂巢有毒 濕地草

鼠草 覆茸 綴一二寸 似松茸而
根外黑有粒皺晒乾正黑而如漆革裏黃赤一此外數種アリ畧ス草

今年草 刺藁 莠麥芒 莠赤 白花
十月采 增 煙艸芒 小白花帶赤色キト同 藍芒 花葉似蓼而七八月
根云々 紫苑ノ芒ニ似タリ 開於紅小花又白花

モアリ穂 フナス

八月 服食門

鶉衣 短キ衣類ナリ又裾ノ破レテ 鶉ノ毛ニ似タルヲ云トモ 鰓漬 鰓ハ小 鯛ナリ

葡萄 紫葛 紫葛ハ蒲萄ニ似テ實ヲ結バズ 又一種野蒲萄ト云アリ實小ナリ 苗香實 大 蘇 苗香者八角苗香也本朝未有之蘇小苗香者即懷香也和蘇種之高三四尺 肥莖粉青色細葉淺綠如糸柔韌夏開小花淡黃色結子形色似粘麥而小有

筋梭和名シレノオモ 花ハ蛇狀花ノ如シ 王瓜 天瓜 天瓜書俗 名老鴉瓜 鴨上戸 白莢 生葉ハ牽牛花ニ似テ小白花ヲ開ク五瓣ニメ子ヲ抱テ外ニ翻ル其實七 八月熟ス黃色味酸シ食ヘシ冬ハ其實紅ナリ本艸蔓艸ニ又排風子ト云

通艸 夏秋開紫花亦有白花者實長三四寸核黑瓢自食 似栲而本窠俗曰唐栲一月而熟故名一熟其樹雖似栲把不然婆 娑葉似蓖麻而小背色淡潤文理隆明 爰識篇波奈々志久太毛乃

種瓢 菱實 零餘子 若煙艸 青豆

束束 增 苜蓿支 蔓莖葉如葡萄而小七八月開小黃花結瓜長者四五 寸短者二三寸青色皮上痒痕熟則黃色自裂內有紅 瓢味日可食和 三苦瓜ト云々

八月 公式門

八月 公式門

八月 公式門

宰府祭

廿五 後ち國神並那祭神云満宮毎年所祭天子所お
二ツ下りーと神主屋面してを習させたり唯年おれ

一ツハ天子へ上り一ツハ裁けて持ノ守へ添侍人戴屯右卿
左卿ハ侍人依侍して社寮別當を下る五ヶ年一返神勅使立由

開山忌

廿四日ヨリ 越前国志比庄永平寺廿八日ハ曹洞開山道元
廿八日マテ 禪師ノ忌日也愚云諸抄ニ諸宗祖ノ忌アリテ

スマ〜 此忌モレタルカ
故ニ今新タニコレヲ出ス

九月

三才門

長月

初長月と云
を器とるこ

寢覚月

梢の秋 紅葉す
ゆ急こ

菊月

小田菊月

季秋

晚秋

紅葉月

無射

律〇礼月令註陰気上升陽気下
降萬物随物而藏無有射出見

寒露節

霜降

九月ノ中

重陽

茱萸袋

高き登

統齊譜記汝南桓景随費長房遊業
長房謂曰九月九日汝家有災厄余

家人作綵袋盛茱萸繫臂登高山飲菊花酒此禍可消景如其言舉家登山至
夕還鶏犬皆暴死長房曰代之乎今人至九日飲菊花酒始此又謂之登高會
西京雜記采菊花莖葉雜秫米
釀酒至次年九月始熟用之

ノ所ヲ見
合スヘシ

後の雛日

四方の節

野山の節

望山の色

漆る山

蚊屋の画

説云九月に蚊屋の切らて厂ときけハ災
群を受るとく九月こあれを蚊屋に厂と画

て蚊屋の切らてゆりささる異してハ
此偶の物々に厂の字を出てけらこ

星月夜

秋の末星のキ
ラメクヲ云

後の月

十三夜

二夜月

栗名月

豆名月

月の名所

二度の月

細代抄

露時取

露栴間にくらて焼
くけてこるを云

五夜抄

考律て栗の
ぬきと云

秋取

露雨

風好名所。年貢

秋ふり

長き夜 明をむね 冬隙 冬色
 秋の名跡 菊の跡 秋を惜む 九月盡

九月

氣形門

初鴨 辰飯 下リ飯 濕飯 尾芒蛸 標翅

鮎の魚の形 鮎 深秋其鱗紅ニ変ス 雀成蛤 九月

容あり 増 豺祭獸 九月ノ 中ナリ

九月

草木門

菊の蒼 石在菊 葵草 菊合 てあそふ真

菊の才とり をニツとまけて をニツとまけて をニツとまけて

見とんひ菊 をニツとまけて をニツとまけて

菊の才とり をニツとまけて をニツとまけて

補 をニツとまけて をニツとまけて

萩我草 をニツとまけて をニツとまけて

菊の才とり をニツとまけて をニツとまけて

忍草 をニツとまけて をニツとまけて

九月

構ハ木形如椿
七月結実

補ハ紅葉チルモ名ノ木チルモ秋ナリ但名
ノ木トハ畧ニメ其木ノ名ヲサシテ云

ヘキ
ナリ

結ハ深取

吹ハ縮

播ハ田

箱孫ハノ再云

運ハ箱

箱株

九月

服食門

○衿

九日小袖

地下良賤今日著縹色小袖互相賀是謂九日小袖

○菓子

裏紫

カサ子ア
ルヘシ

緒ハ鱗

ルカシ

菊酒

造法重陽ノ下ニシルス

栗粉餅

ノ

糕ニ栗ヲ
交ルヨシ

木の実

梅螺

味の实

標

推子ニ似テ大ナリ

味甜

圈栗

銀杏

棕

栢の実

和三抱ヲ

カシハ
ト訓ス

核の实

嬰子桐実

桂ノ類ニ赤キ実ニ黒樟ハ実黒シ和三樟タブ

芋

花ハ三四月栗花ニ似テ黄ナリ

梅檀実

其子黄色金鈴ト名ク

標

樹低小ニメ前ノ如

菜黄

樹皆栗ノ如ニメ小形橡実ノ如ク味亦栗ノゴトシ

南天実

櫻子ノ如ニメ簇ヲナス是吳茱萸

ナラン九口ニ用ルハ食茱萸ナリ

榧

棟ノ子ノ如ニメ小ク簇ヲナス

榧

木葉並似女貞而厚狭長三四月開小細花深赤色結子別其葉面如子者脹出中有小虫化出殼有孔口吹去塵埃為空虚大者如桃李人用収

胡椒以代飄葦故俗曰飄木或木欒子

葉似木槿而薄細黃花子

小兒戲吹之為笛駿州有之

檳榔

花稠ハ書加良保ハ實團長三寸許小瓜ノ如シ味酸シ花ハ林檎又海棠ニ似テ邊ク開ク

馬榔

葉林檎ヨリ大

ニメ円薄栗ニメソノ実林檎増ハイカシ

皂角

樹高大葉如槐結子有三種畧ス

菩提子

山高山中

樹高大枝葉皆如椿葉對生五六月開白花結子狀如銀杏熟黃也實中一核堅黑正円如珠軟子取為念珠又木患子今俗云菩提樹

九月

增 桐油 實樟一実ノ 類ナリ

新 榧

新 胡桃

榧の實

椿實

榲

熟榲

爲榲

栗

苧粟

苧粟

苧粟

推 苧推

推 苧推

柘榴

柘榴實

仁手柑

實形如人手有指有長一尺四五寸者皮如橙柚其味不甚佳而清香襲

入密煎

金柑

橘

大ナル者 密柑

增 雲州橘 實肥密橘ニ似タリ大サモ

同シ本名温州橘ナリ

柚

九年母

栢子

和三乳栢ノ下云蓋播栢並總名而各有其種歟惟曰播者乃其密栢曰栢者是九年母也栢發雖有八種而所有于本朝者不云云八種ハ爰ニ畧ス亦本細ニ橘有十四品云々

綠豆

緑ハ色ヲ以テ名クヤヘナリ小豆ナリ

蠶豆 五月ニ出ヌ

新酒

古酒

清酒

濁酒

中級 酒

醪 醪 醪

醪ニ醪花ハ黄色ナリ故ニ黄色ノ醪ヲビロクト云

新茗葉

子造酒

温酒

九月九日ヨリト古抄ニアリ然ルニ冷酒ノサメナキハ不審ナリ

增 御燈 三月ニ

同シ

不堪因奏 七

法園の因の拵古くも所折の因細をてき、夫に

了きて租税を措

倒弊

公事に朔日より十一日小を、まて信尼寺僧徒免一終了するを倒弊の人名向きき是ハ大許するが、加之御幣とハ伊勢大社宮へ御幣を奉りせす

を籠え擗

聖之宮門

伊勢へ神越ある時三途月の九りに入てき、

事向一入て

以時天子御自出づの事知くを御茶の神形へさしたまを列れの格とすと云是なり、伊勢無衣に編りてしに加て

院々兼子内親之の後に記す

九月

九月

舍利会 八 泉涌寺舍利殿ニ
テ行フ音楽アリ

神祭有能夜宮有能神輿三基長
尾天神清滝権現騰間明神也

貴布祢祭 九 在鞍馬北可一里祭神高靈神水邊
テ小神輿ヲ造リ市中ニ振ルコレヲ狹小輿祭ト云

生玉祭 九 在栲州東生郡祭神天生玉神
神輿遊行社家行流鑄馬之式

四官祭 十 所祭四坐大比叡大己貴命小比叡國常立尊氣比仲哀天皇
小禪師火々出見毎大津浦中大祭也神輿二基引山十一邊

物噓子造花等從神輿前後而
具行粧善美尽入夜有相撲

銀ヲ入ル器ヲ取鉢ト
云升ト同ク売買ス

寶市 十三 住吉社地ニ市婦神社アリ
是市ヲ守ル神之外ヲ売又

白川祭 十三 在洛北白川里南山上祭神
天滿天神有神輿一基銚五

小倉祭 十五 豐前國到津祠祭神應神天皇
神功皇后玉依姬有流鑄馬

栗田口祭 十五 郡名所園會栗田天王社八御猿堂の東に在り本殿ハ
感神院新官ニ神輿一基銚十五本白川の細き橋を渡

醍醐祭 九 城州宇治郡小
野南醍醐寺天

鞠祭 九 鞆神社祭神一
坐大己貴命

下鳥羽祭 十 所祭牛
頭天皇

御香宮祭 九 在城州伏見
馭京町東祭

山口祭 中己
午日

御祭 十六日
十七日

度會新嘗會 外宮十六日
内宮十七日
是日

岩倉祭 十五 洛北岩倉
大雲寺鎮

牛祭 十五 於太素上宮玉院庭今夜修
牛祭寺僧集會祭摩多羅神

神田祭 十五 武洲江戸祭神大己貴命合祭將門吳干同
社丑卯己未酉亥隔羊神輿渡御遷子出ル

勸学会 十五 三月ニ
行フ

也行者著紙衣乘牛高志誦誦祭
文悉懺悔之詞畢門前有相撲

守岩座大明神八幡賀茂松尾山玉住吉春日新羅太神宮貴布祢稻荷平野
共十二坐也俗ニ尻たき祭ト云取入神代を裁まると一村の内村婚

の女を撰て婚礼の表衣を身して神供の器を以て小戴き
神衣に袴を老若小き枝本をもりて新婦の尻を打あり

周防國吉敷郡仁壁神社
神味高彦根命下照姬命各一社已上三坐有流鑄馬

伊勢御遷宮 增
度會新嘗會

奉らせり云云
早稲米の御祭ト云

定祭 十六日 或
廿二日 大荒木社祭在城州淀小橋北又淀水

在揚州豐嶋郡池田村北上号綾羽大明神
和妙衣荒妙衣ノ神供ヲ備ヘ神衣祭ト稱ス

尾儀祭 十六 洛東岡崎天王祭神
輿一基有銚七本

吳服祭 十八 右同村田園
ノ中ニアリ

綾羽祭 十七

九月

和學園
短大
第 6424 冊
受入
33 3. 14

両社具間僅十町許云々吳国ヨリ来
リ縫工女吳織杭織ヲ祭レルナリ
蛭子祭 廿 坐洛東建仁寺
門前千光国師

飯宋時舟中暴風之难偶有蛭子像波漂者救之於舟中祭之舟無恙歸寺建
社而祭之到今赴西海人詣此社而祈無風波難故祿旅夷官川町迎祭之遊
物造物等有之神輿
座摩祭 廿二 季ク六月ニシルス大坂ノ
祭ハスベテ六月十九日ナ

レ氏六月ハ重ク
九月ハ輕シ云々
諏訪祭 九日 肥前国長崎ノ惣社ナリ此
祭ニ清人ト葡人ト西日ニ

ワカレ遊戯ヲナシ見物ノ人迹国ヨリモ勝ク集リ甚賑ヒ候フ此祭ヲ限
リテ来船人ハ残ラス歸リ去當所サビシク相成候ヨシ又赤水ノ長崎紀

行テ九月九日祭礼大云々遊女トモ共々行列をふま替々ノ飾お
を車ヲ引出シ又阿茶階踊トモ共々人取毛の祭ホトク并踊了り

毛取鼓より曲ヲ奏ト一人ツク出す此日ハ増
天満流鑼馬 廿五 委ク六
月ニシ

ルス六月九月兩度ナレ氏六
北山祭 廿六日 在洛北衣笠岳民平林
廿七日 中土人云六所明神祭

月ハ重ク九月ハ輕シトソ
津村祭 廿七 在撰州西成郡大坂津村祭神
鎌倉権五郎景政靈ト云々

神未
鳴滝祭 廿八 鳴滝福王寺祭也所祭光孝帝之后班子皇后也
神輿一基鉾五本入御室御所庭云々



